



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

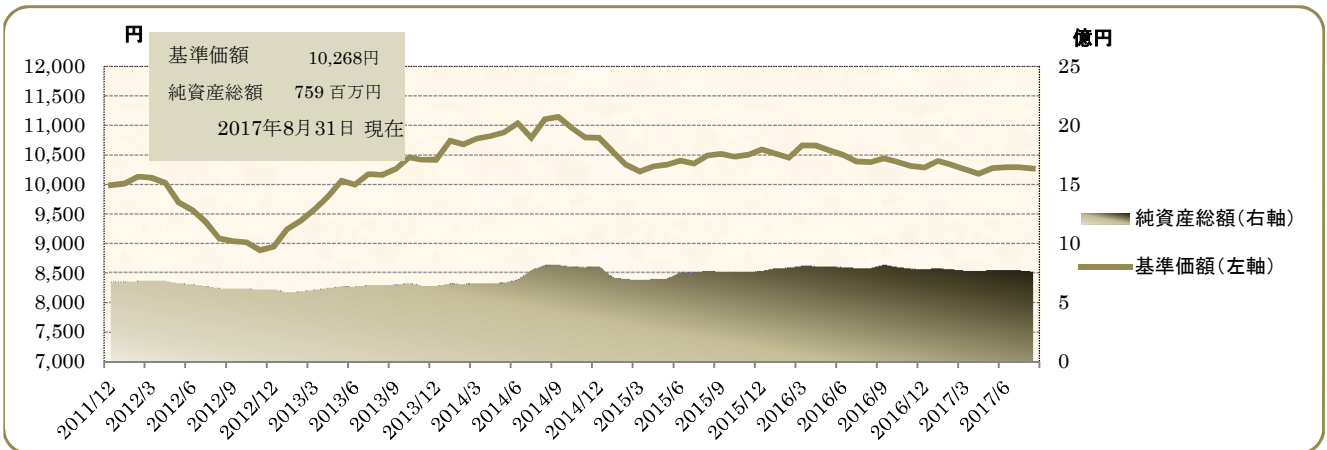
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2017年8月31日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

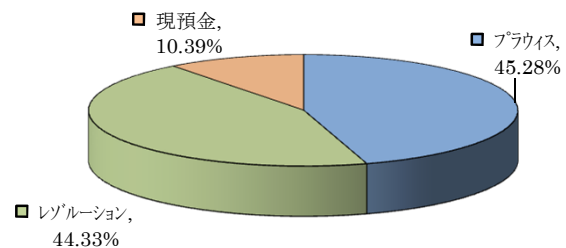
2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	1.12%	-0.65%	-0.70%	-0.74%	0.89%	0.15%	0.02%	-0.24%					-0.17%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%	-0.75%	-0.70%	-1.11%	-0.13%	0.67%	-0.58%	-0.66%	-0.29%	-2.90%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%	-0.49%	0.32%	0.87%	-1.85%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2017年8月31日	
基準価額:	10,268円	対前月比 -25円
純資産総額:	759百万円	対前月比 -9.4百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-0.08%
基準価額騰落率	6ヶ月	-0.63%
設定来	ファンド	2.68%
基準価額騰落率	TOPIX	123.54%
	日経平均	133.84%

投資対象ファンドへの資産配分 (2017年8月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	0.49%	-0.64%	-1.07%	0.54%	0.23%	1.11%	1.29%	0.18%					2.13%
レゾリューション	2.64%	-0.21%	0.10%	-1.57%	2.37%	-0.94%	-0.61%	-0.11%					1.62%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%	-1.70%	-2.76%	-0.40%	0.23%	0.59%	0.33%	1.76%	0.04%	-0.80%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%	-1.58%	-1.30%	-0.63%	-1.17%	0.52%	-0.71%	-0.53%	N/A※	-6.83%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%	1.60%	2.29%	-1.64%	1.14%	1.99%	-0.53%	-2.34%	-0.01%	8.87%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%	0.83%	0.19%	0.15%	1.82%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%	0.00%	0.92%	0.54%	2.14%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%	-1.26%	1.14%	3.19%	4.44%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

※ HFS1へのウィズダムの組み入れは、2016年11月末までです。ウィズダムは2017年1月25日をもって償還しました。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

8月の株式相場は、日経平均で1.40%下落の19,646.24円、TOPIXで0.07%下落の1,617.41ptとなりました。好決算を発表した銘柄などを中心に上昇しましたが、北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりや米政治の混乱から下落しました。リスク回避姿勢がやや和らぐと、下げ幅を縮小させました。

上旬は、米ハイテク株安を受け、半導体関連株などを中心に売られ下落しました。好決算を発表した銀行株や外需株を中心に上昇しましたが、米ハイテク株安、北朝鮮の地政学リスクへの警戒感の広がりなどが重荷となり、下落に転じました。

中旬も、引き続き下落しました。北朝鮮と米国の間で緊張感が高まったほか、トランプ米政権の政策実行能力への不信感などを背景に、円高・ドル安が進行しました。それによる投資家心理の悪化から、引き続き下落しました。

下旬は、北朝鮮を巡る地政学リスクや米政権運営の不透明感の高まりから下落するも、下値では自律反発を狙った買戻しが入りました。地政学リスクに対する過度なリスク回避の動きが後退すると、米株高、円安・ドル高となり、上昇に転じました。

需給面では、海外投資家が2ヵ月ぶりに売り越しとなりました。国内の投資主体は、信託銀行が3ヵ月連続の買い越し、個人投資家は5ヵ月ぶりの買い越し、投資信託は2ヵ月連続で買い越し、事業法人は17ヵ月連続の買い越しとなりました。

セクター別騰落率では、石油・石炭製品、空運、非鉄金属、海運、繊維製品が上位となり、保険、証券・商品先物取引業、不動産、銀行、ガラス・土石製品が下位となりました。

東証一部の売買代金は、1日当たり2.11兆円と、活況の目安となる2兆円を10ヵ月連続で上回りました。

新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスが3.1%の上昇となりTOPIXを大幅にアウトパフォームした一方、東証マザーズ指数は4.7%の下落となり、TOPIXを大幅にアンダーパフォームしました。

ファクター面では、引き続きグロースファクターが好調で、経常利益成長率が+2.95%、予想ROEが+2.06%となりました。7月以降の安定したパフォーマンスは、低成長・低ROEである金融セクターの不振により約5割が説明可能で、収益力を重視した銘柄選好が続いています。また、地政学リスクの悪化等を受けて低リスク銘柄が大幅にアウトパフォームしました。低リスクで運用される最少分散ポートフォリオへの資金流入も2017年4月以降緩やかに継続しており、低リスクで利益のクオリティが高い銘柄への選好も継続している模様です。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】 〈ファンド運用状況〉

8月の運用成績はJPYクラスで+0.18%となりました。8月前半は北朝鮮リスクが高まったことで、好業績銘柄が利益確定売りに押されたことやショート銘柄が相対的に堅調だったことから、マイナスのパフォーマンスとなりました。しかし8月中旬以降は鉄道セクターのペイトレードの利益が大きかったことなどから、月間ではプラスとなりました。

セクター別の損益では、化学、陸運、銀行、ガラスセクターでプラスとなり、電機、精密、非鉄金属セクターでマイナスとなりました。

【レゾリューション】 〈ファンド運用状況〉

8月の相場は、7月とは反対に小型優位となりました。決算により大きく動く銘柄も散見されましたが、全体としてグロース、株価モメンタム、利益モメンタム優位となり、一時的な相場展開が目立ちました。また、マザーズ銘柄が弱かった一方で、ファンダメンタルのしっかりしたハイパリュエーション銘柄が息を吹き返しました。

再度、2極化が鮮明となり、業績による選別が極めて大きい印象です。

ポートフォリオに大きな変更はなく、グロース銘柄の組入も行いましたが、好業績銘柄のロングがプラス寄与した一方、グロース性の強い一部銘柄のショートや決算絡みの一部銘柄がマイナス寄与となりました。

全体として、ショート銘柄の選択効果が得られなかったことから、パフォーマンスの獲得に至りませんでした。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

9月の株式市場は、地政学リスクの高まりや、米国政治の混乱もあり、引き続き上値の重い展開を想定します。一方で、好調な企業業績を背景に、押し目買い意欲も強いと思われる、下値も限定的と考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

第1四半期決算の発表に併せて、通期業績予想を上方修正するなど、足元の好調さも多く見られ、全体として好進捗な企業が目立ちます。

一方で、バリュエーションの格差も大きく、慎重な業績判断が求められています。

9月は、引き続き銘柄入れ替えを進めるものの、センチメントの大きな転換が見込めないことから、個別好業績銘柄を中心に、定性的にプレミアム評価を受けやすい銘柄を重視します。

引き続き、化学、エレキ、情報・サービスのオーバーウェイトを維持します。

また、一時的にグロースエクスポージャーを落としています。小型株が調整する局面においては、積極的な銘柄組入を行います。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービシス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービシス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedfund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。

投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。